

2025年度 森下記念病院における勤務医負担軽減計画

2024年3月末現在の勤務医の勤務状況	
1 医師数	・常勤 9名 ・非常勤 26名
2 常勤医師平均業務時間	平均: 34.7時間/週(最大: 58.6時間 最小: 32.0時間) ※短時間正規雇用者含む
3 当直回数	月平均 3.24回

目標
①「医師の働き方改革」法令遵守継続
②診療機能見直しと集約
③病床数適正化と地域医療構想における当院の役割を明確化し、中・長期的に持続可能な専門特化型医療機関へのシフトチェンジ実現に向けた動き出し
④特定医師の負担偏在化の是正・解消を2025年度の目標とする。

オ・カ 取組項目	現状・問題点	具体的な取り組み内容	目標達成年次	主たる 所管部署	達成項目のチェック 2026年3月	
					<input type="checkbox"/>	%
オ	法整備に伴うタスクシフト推進により、腎不全治療の分野においても、認定看護師が各種項目で医師の診療負担を軽減することができる。(新規、項目差替え)	2025年度末に看護師2名が特定行為研修を修了予定。 今後、医師と共に院内手順書を作成し医師に代わって医療行為を実施することで医師の業務負担を軽減する。	腎不全看護認定看護師養成につき、2026年度(次年度)の達成を目指す。	看護部	<input type="checkbox"/>	%
オ	管理栄養士が右記の業務を担う事で、入院時の食事内容指示等にかかっていた時間を軽減する。(新規、項目差替え)	1.入院予定患者の食事内容について、栄養情報提供で得た内容を事前に入力する。 2.状態に合わせた食事内容の提案。 2.栄養指導対象者の抽出、実施。 3.食事指示の入力。 4.低栄養患者への付加食品等の提案。	一つでも多くの項目について、2025年度内の実現を目指す。	栄養課	<input type="checkbox"/>	%
オ	理学療法士が、右記業務を担うことにより、医師の患者状態評価と診断補助を行い、負担を軽減する。(新規)	理学療法士が透析時運動指導の実施役を担い、随時ADL・QOLの状況を医師や関連職種へ情報共有していく。また、透析センター職員の情報などを元に必要に応じて身体機能評価を実施し、結果を医師に伝達した上で運動指導介入の必要性を検討する。	2025年度中の実現を目指す。	リハビリ室	<input type="checkbox"/>	%
オ	輸血依頼時、同一依頼内に複数日程分の輸血がまとめて入力されるケースがある。運用上、1依頼につき1伝票が原則のため依頼の修正が必要となる。(新規)	検査技師が輸血依頼の変更を代行入力し、医師の確認を経て実行。	2025年度中に達成させる。	検体検査課	<input type="checkbox"/>	%

オ・カ 取組項目	現状・問題点	具体的な取り組み内容	目標達成年次	主たる 所管部署	達成項目のチェック	
					2026年3月	
オ	肝炎ウィル検査(市検診)の結果記入が医師による手書きであり負担となっている。 (新規)	手書き作業が不要な書式(健診事務で結果を入力)を作成し、医師が確認・承認を行う。	2025年度中の実現を目指す。	健診	<input type="checkbox"/>	0%
オ	外来初診時の予診・問診作業に時間を要している。 (新規)	医事課受付担当による、初診時の予診・問診を実施。	目標達成中。 2025年度も達成させる。	医事課	<input type="checkbox"/>	%
オ	医師の記録、データ整理業務が多く勤務負担となっている。 (継続、一部追加)	医師診療作業補助者の適正な配置。 1.診断書などの文書作成補助。 2.診療記録への代行入力。 3.診療に関するデータ整理。 4.院内癌登録など統計・調査。 5.研修・カンファレンスのための準備作業。 6.感染症サーベイランス事業に係る入力。 7.検査予約代行入力。 8.回診事前準備。 9.身体抑制指示代行入力。 10.入院総括等の下準備 11.下肢抹消(フット診察)記録代行入力 (追加) 12.外来診療介助 (追加)	追加項目あり、2025年度は完全達成を目指す。	診療部門 支援課	<input type="checkbox"/>	%
オ	CPAP・ASVの月次解析データについて、カルテに算定等に必要項目未記載のことがあった。 (前年度未計上も継続項目)	生理機能検査技師が解析結果からデータを抽出しカルテ上に事務記録として記載し、医師の診断補助を行う。	前年度計画には含んでいなかったが、実施・達成中であり2025年度も完遂する。	生理検査課	<input type="checkbox"/>	%
オ	薬剤師が、右記業務を担うことにより、医師の負担を軽減する (医薬品管理業務の煩雑さ軽減) 。 (継続)	1.入院時における持参薬の確認・管理。 2.中止・休薬の再調整。 3.残薬確認。 4.薬剤管理指導の強化。	目標達成中。 2025年度も達成させる。	薬剤課	<input type="checkbox"/>	%
オ	健診胸部XP、胃バリウムで読影補助業務を行っているが、結果説明までに補助読影が間に合わないことがある。 (継続)	読影補助を行えるスタッフが限られているため、全スタッフが行えるようにする。 (胸部:習得済み、胃透視:上達へ)	一部非該当スタッフの育成を2025年度完遂させる。	放射線課	<input type="checkbox"/>	%

オ・カ 取組項目	現状・問題点	具体的な取り組み内容	目標達成年次	主たる 所管部署	達成項目のチェック	
					2026年3月	
オ	データ提出に必須となる様式1資料を医師が作成している。 (継続)	診療情報管理士による各データ収集、様式I作成後、医師が承認する。	目標達成中。2025年度も精度の向上を目指す。	診療情報管理室	<input type="checkbox"/>	%
カ⑤	入院患者管理については主治医制を導入しているため、夜間、休暇時には基本的にオンコールで主治医が対応しており、勤務時間外の負担が増している。 (継続)	2025年度の常勤医師採用計画は無いが、既存在籍医師により複数主治医制または、サブ担当医制を継続する。	目標達成中。 2025年度も達成・拡充させる。	診療部	<input type="checkbox"/>	%
カ⑥	育児休業明け医師もおおり、働く女性等支援でもある職場環境の提供として、子育てを支援する環境の提供が必要と考える。男性医師の育児支援も課題である。 (継続)	病院24時間保育施設が併設されており、医師の子育てを支援する環境も確保できる。職域の違いからベビーシッター制も採用しており活用を促進。これにより常勤医師招聘の為の厚遇にも繋げる。加えて、多様な勤務時間(育児に伴う時短勤務)も承認していく。	2025年度も継続、利用促進を行う。	保育課 総務課	<input type="checkbox"/>	%
カ②	常勤医師の当直負担に濃淡があり、負担が重い医師への軽減が必要である。 (継続)	病院長より直接常勤医師への働きかけを継続し、偏りの解消と協力を要請する。新任医師にも分担を依頼。	2025年度も継続実施。短時間正規雇用医師の更なる稼働上昇を目指す。	病院長	<input type="checkbox"/>	%